消防だより

虹のマーチ

2020.2
第45号

全国一斉に春の火災予防運動が始まります

実施期間　3月1日(日)～3月7日(土)

多数傷病者対応訓練の様子
(霞ヶ関カンツリー倶楽部にて)

川越地区消防組合

消　防　団　員　募　集　中

川越市に在住・在勤・在学中の18歳以上の方
【問い合わせ先】川越地区消防局　総務課
TEL 049－222－0741

川島町に在住・在勤・在学中の18歳以上の方
【問い合わせ先】川島消防署消防課
TEL 049－297－1979

東京2020オリンピック開催に向け、訓練を実施しています!!

川越地区消防局は、今年の夏に霞ヶ関カンツリー倶楽部で開催される、東京2020オリンピックゴルフ競技大会を見据え、訓練を実施しています。

オリンピック競技大会は、世界中から注目されるイベントであり、開催期間中は多くの方の来訪が見込まれます。皆さまの安全・安心を守るため、更に訓練を重ね、職員一丸となって尽力して参ります。

【爆弾テロ災害実動訓練】

7月3日、8月29日に、埼玉県中央防災基地にて爆発、異臭などにより大勢の負傷者が発生した想定で訓練を行いました。この訓練で、爆弾テロ災害への対応力向上を図りました。

【多数傷病者対応訓練】

11月11日、開催地の霞ヶ関カンツリー倶楽部にて突風、雷により、多数の負傷者が発生した想定で訓練を行いました。この訓練には、近隣消防本部、埼玉県防災航空隊及び医療機関も参加し、多数傷病者への対応力の向上を図ると共に、関係機関との連携強化も図りました。

【NBC災害対応訓練】

12月18日、12月19日の2日間、埼玉県中央防災基地にて、川越市内のレストランで、漏洩事故により多数の負傷者が発生した想定で訓練を行いました。この訓練で、NBC災害への対応力の向上を図りました。また、日本語が通じない外国人とのコミュニケーション能力の向上を図るため、管内在住の外国人の方に負傷者役として参加協力していただきました。

※NBC災害とは、核物質、生物剤、化学剤による災害のことをいいます。工場などで発生する事故のほか、化学剤を使ったテロなども含まれます。

消防局警防課　TEL 222-5891
消防局指揮統制課　TEL 226-7408

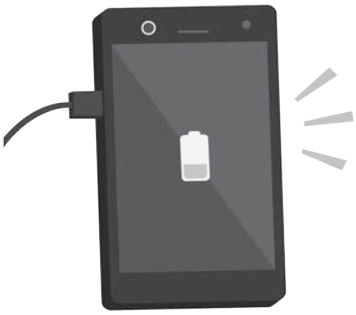
リチウムイオン電池の火災に注意しましょう!!

みなさんリチウムイオン電池って聞いたことはありますか？

リチウムイオン電池は、わたし達の身の回りで多くの機器に使われています。一番身近なもので、スマートフォンのバッテリーもリチウムイオン電池です。

一般的な使い捨ての電池に比べて、５つの特徴があります。

① 軽い　② 小さい　③ エネルギーが大きい　④ 充電して繰り返し使える　⑤ 寿命が長い

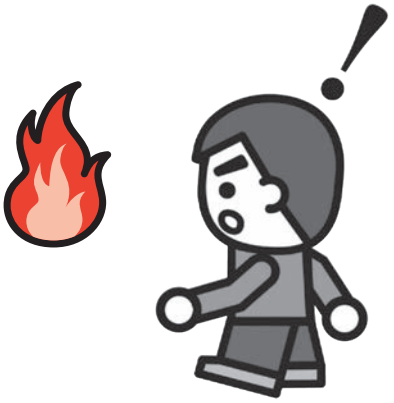


一方、エネルギーが大きいため、使い方を間違ってしまうと火災や重大な事故につながる危険性があります。

水没させたり、誤って落としてしまい衝撃をあたえた場合、バッテリーの内部でショートし火災の発生につながる恐れがあります。

昨年は、当組合管内電気火災の26％がリチウムイオン電池によるものでした。

～火災を防ぐためには～



❶ 充電器は各機器を購入した際に付属されている物やメーカー指定の物を使用しましょう。
❷ 膨張、発熱、異音、異臭などの異常が認められる場合は、すぐに使用を中止しましょう。
❸ 水没した場合もすぐに使用を中止しましょう。
❹ 強い衝撃を与えないようにしましょう

小規模飲食店の消火器の設置が義務化

平成28年12月の糸魚川市大規模火災を契機とした消防法施行令の改正により、令和元年10月1日から150㎡未満の火気を使用する小規模飲食店に消火器の設置が義務化されました。

特別査察を実施し、消火器の設置や法定点検の準備を促すなど普及啓発を行い、こんろ廻りの維持管理状況やカーテン等の防炎物品についても併せて指導しました。全国の小規模飲食店の火災の6割が「こんろ」から発生しています。まずは火災を起こさないことが大事ですが万一に備え、消火器の設置並びに維持管理をお願いします。

詳しくは下記ＱＲコードからご覧になれます。

川越西消防署消防課　TEL231-1197

「火災ゼロ！」街頭広報

ＪＲ川越駅職員、東武川越駅職員の協力のもと、中学生職場体験生徒（川越第一中学校）と一緒に「火災ゼロ！」のスローガンを掲げ、火災予防街頭広報を実施しました。

川越中央消防署消防課　TEL242-1194

第九号

川越市消防団だより

【作　成】川越市消防団　広報委員会　　【連絡先】川越地区消防局 総務課 消防団担当TEL：049-222-0741

水防工法研修会・水防演習

川越市消防団の団員は水防団員も兼務しています。川越市にて隔年で開催されている「川越市水防演習」の実施に先立ち、前日の令和元年6月15日に入間川河川敷の上戸運動公園にて「水防工法研修会」を行いました。

研修会では、河川の増水時に堤防及びその周辺で発生する越水、漏水、川表洗堀、亀裂などに対応した水防工法を各地区の分団長が指導者となって団員を指導しました。

水防工法は、大きくは準備工法と状況により選択される各工法の2段階に分かれており、準備工法では「土のう作り」や「竹とげ・杭ごしらえ」など各工法で使用する資材の事前準備が行われます。また、各工法は、「改良積土のう(越水防止)」「シート張り(漏水・洗堀防止)」「月の輪(漏水防止)」「五徳縫い(亀裂・崩壊防止)」などから実際の現場状況に応じて適切な工法が選択されます。

水防演習では団員による工法の実演に加えて、消防局職員と市役所職員による排水ポンプ訓練も行われ相互連携が確認されました。

現代では、平常時の機械・器具や重機類が充実しており、従来からの水防工法によることなく水害を防ぐための手立てを選択できる場面も増えました。しかし、台風の襲来などにより急激に河川が増水するような状況下では、必ずしも万全な機械・器具が手配できるとは限らず、水防団員は日頃から各分団に配備されている資機材を用いて実施できる工法にも習熟しておく必要があります。

川越市水防団では、水防工法研修会及び水防演習を通じて団員の水防に関する知識や技術の向上に努めるとともに、災害対応マニュアルの整備などにより市民の皆様の安全・安心を守る活動に取り組んでいます。

水防警戒活動

川越市水防団では、令和元年9月から10月にかけて発生した台風15号、台風19号、台風21号において、水防警戒活動を行いました。

水防団による警戒活動は、消防局内に設置される水防警戒本部から水防団長および副団長が無線により各地区の分団車庫で待機する水防団員の統制をとり、消防車両による受持地区内の巡回や時間と共に変化する状況に応じた活動を行います。

特に10月12日から13日にかけて上陸した台風19号では、記録的な大雨による河川増水や内水はん濫を受け、管内巡回による状況確認をはじめ、高階地区での排水作業の支援、南古谷地区での積土のう実施、名細地区での浸水に伴う避難周知および冠水道路への進入規制などの活動を行いました。

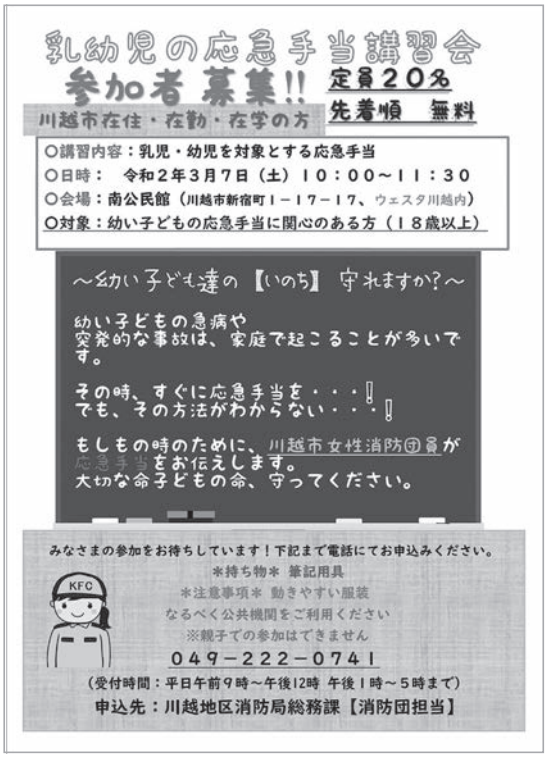
警防本部における情報共有

排水ポンプの設置

倒木の除去

河川状況の巡視

「幼い子どもの命、守れますか?」乳幼児の応急手当講習会を開催します



幼い子どもの急病や突発的な事故は、家庭の中で起こることが多いです。その時、あなたは応急手当ができますか？

女性消防団員は、応急手当法の出張指導も行っており、今年度も3月7日（土）に南公民館で幼い子ども（乳児・幼児）への応急手当をピンポイントに学べる講習会を開催いたします。

講習会では、「応急手当普及員」資格を持つ女性団員が、訓練人形を使って丁寧に分かりやすく指導いたします。内容は、胸骨圧迫・人工呼吸・AED・異物除去や止血など。和やかな雰囲気の中で、しっかり応急手当を学びましょう。

川越市内に在住・在勤・在学で乳幼児の応急手当に関心をお持ちの方でしたら参加費無料で受講いただけます。みなさまからのお申込みをお待ちしています。

※お申込みの際は募集要項をよくご確認ください。

また、電話のおかけ間違いにはご注意ください。

丁寧に指導します

講習会の様子（昨年度）

団員紹介

さまざまな経験や思いを持って活動している川越市消防団の団員をご紹介いたします。

【芳野分団　吉澤典史団員】

私は学校卒業後、川越を離れてワーキングホリデーで海外生活したり、バイクで日本中を旅していました。旅の途中で刃物鍛冶の仕事に出会い、自分の工房を持つなら愛着のある地元川越でと思い、戻ると同時に芳野地区の自警消防団に所属したことがきっかけで消防団に入団しました。

はじめは突然の火災連絡などに戸惑うばかりでしたが、訓練や行事を通じて次第に操法技術も身につき、仲間や地域とのつながりも増えて今では随分と落ち着いて対応できるようになりました。

これからも消防団の活動と刃物鍛冶の仕事のバランスを大切にして、地元の仲間と一緒に地域の安全安心を守る活動を続けていきたいと考えています。

点検時の吉澤隊員

工房で鉄を打つ

【団本部　井　まみ分団長】

団本部分団長の「井（い）まみ」です。

平成16年に女性消防団発足時から活動をはじめ、16年が過ぎました。入団当初から消防音楽隊にも所属しパーカッションを担当しています。自分の子どものような隊員たちの中でドラムを叩いたり踊ったりしています。

二人の孫がいるので、最近は子どもに関するニュースに目がいくようになり、消防団の活動の中でも乳幼児や老人、また障がいを持つ方などの災害弱者をいかに守るかを念頭に、防災減災の知識を深めて市民の皆さんに指導できるよう努めています。

救命や防災を学びながら社会貢献もできます。あなたも消防団員として一緒に活動してみませんか？

制服姿の井分団長

音楽隊でも活躍

川島町消防団だより

第九号

川島町消防出初式

令和2年1月11日(土)、川島町役場において、川島町消防出初式が挙行されました。令和になって初めての出初式では、消防部隊訓練として消防団と消防署による救出救護訓練の実施や埼玉県防災航空隊の防災ヘリコプターによる救助訓練を披露しました。また、とねがわ幼稚園の幼年消防クラブによる鼓笛や角泉囃子連の皆さんによる獅子舞が披露され、会場を盛り上げました。

最後は川島町消防団全6分団と梯子車での一斉放水が行われ、今年1年の安全を祈願し、出初式を締めくくりました。

消防特別点検

令和元年11月3日川島町大字上狢にある埼玉県中央防災基地で川越地区消防組合消防特別点検が実施されました。消防特別点検は、毎年、川越地区消防組合管理者(川越市長)より、消防の任務・責務に必要な規律、機械器具、消防操法等の総合的な点検を受け、消防活動に万全を期する為に行われています。

当日は、人員並びに服装点検部隊点検・車両点検のほか、全分団による分列行進・一斉放水を行いましたまた、川島町消防団の代表として第2分団が消防操法を行いました。

今後も団員一人ひとりが、規律の向上と技術の習得に励んでまいります。

川島町防災訓練

令和元年9月1日(日)、伊草小学校において、第34回川島町防災訓練が実施されました。

伊草地区自主防災会の方々を中心に川島町消防団・消防署を含め、460名が参加されました。

消防団による倒壊家屋での救出救護訓練の実施や展示コーナーでは、女性消防団員によるAEDの体験指導を行いました。他にも、応急救護訓練や初期消火訓練など、住民の皆様とともに体感し、改めて地域防災の重要性を考える一日となりました。

こども防災キャンプ

令和元年８月17日（土）、八ツ保公民館において、こども防災キャンプが実施され、小学生25名、川島町子ども会のスタッフ10名の合計35名が参加しました。

救急講習会では、参加者を４グループに分け、それぞれのグループに女性消防団員を配置し、応急救護の指導を行いました。この講習会は、子どもたちが多いことを考慮し、難しい用語は簡単な言葉に言い換えたり、実際に体験してもらうことを重視しました。

まず、導入として、応急手当の重要性やAEDの説明をしました。これにより、倒れた人の命を救うためには、救命措置が大切だということを理解してもらいました。次に、救命措置の一連の流れを実演した後、グループごとに分かれ、講習が行われました。そこで、訓練人形を使用し、傷病者の反応の確認や呼吸の確認、また、胸骨圧迫やAEDを実際に行ってもらいました。初めて救命措置を体験した子どもたちも多く、団員の説明に熱心に耳を傾け、積極的に講習に参加していました。

水防訓練

川島町消防団は水防団としても活動しており、令和元年5月26日、水防団の士気を鼓舞し、作業能率の向上のため、また、水防体制の整備に資するとともに、住民の水防に対する協力と理解を求めることを目的として、大字長楽地先の堤防で水防訓練を実施しました。木流し、積土のう、竹とげ、杭ごしらえ等の水防工法を行い、作業能率の向上を図りました。

10月の台風19号の際には、水防訓練での経験を基に、積土のう等の水防工法を危険箇所に対し施しました。

今後も住民のみなさまの安全、安心のために水防工法の訓練を重ねてまいります。

団長から一言

社会環境の変化により、消防団員の確保が困難を極める中、皆さんの入団を心強く思っております。一日も早く消防団活動に慣れていただき、地域住民の安心安全のため、ご活躍されますよう期待しております。

川島町消防団団長
小川　敏晴

新入団員紹介

石川団員（第三分団）

入団のきっかけは、仲良くさせてもらっている団員の紹介です。また、川島町で自営業をさせてもらっているので、消防団の活動を通し、地域貢献をしていきたいと思い入団いたしました。

服部団員（第三分団）

入団のきっかけは、子供たちの同級生のパパが消防団員で誘われたことです。今後も分団の仲間と地域の為に消防団活動に力を入れていきたいです。

小池団員（第六分団）

今回、分団のお誘いを受け入団する事となりました。川島町の安全を守れるよう、しっかり努めていきたいと考えます。

利根川団員（第六分団）

消防団に入団するにあたり、地域防災の重要性を肌で感じております。「自分たちの地域は自分たちで守る」という理念のもと消防団活動に尽力したいと思います。

堤団員（第六分団）

このたび、分団よりお声をかけていただき、入団を決意しました。地域の皆さんが安心して暮らせるよう、消防団活動に取り組んでいきたいと思います。

平成30年度決算

消防局総務課 TEL222-0741

歳入

負担金（消防行政を運営するのに必要な負担金（組合を構成する川越市・川島町からの負担金）	4,963,420,924円	（94.8%）
使用料及び手数料（消防関係検査等の手数料等）	5,440,490円	（ 0.1%）
財産収入（基金運用の利子等）	3,065,773円	（ 0.1%）
繰越金（前年度から持ち越されたお金のこと）	30,964,729円	（ 0.6%）
諸収入（受託収入等の他の収入科目に含まれないもの）	22,446,705円	（ 0.4%）
組合債（金融機関等からの借入金）	177,300,000円	（ 3.4%）
国庫支出金（一定の事業に使いみちを特定して国から交付されるもの）	33,651,000円	（ 0.6%）
歳入合計	**5,236,289,621円**	（100%）

歳出

議会費（議員報酬等の議会運営費）	5,849,933円	（ 0.1%）
総務費（組合管理者・公平委員・監査委員等の特別職の報酬等の経費）	3,780,270円	（ 0.1%）
消防費（消防・救急等に必要な経費及び消防施設の建設費等）	4,815,131,481円	（93.1%）
公債費（借入金の元金、利子の返済のための経費）	346,378,123円	（ 6.7%）
予備費（予見することのできない歳出予算の不足に備えて計上される費用）	0円	（ 0.0%）
歳出合計	**5,171,139,807円**	（100%）

＊比率（%）の合計は、端数処理の関係で100%とならない場合があります。「0.0」は、該当数値はあるが表示単位未満のものです。

「予防救急」ってなに？

救急件数は毎年増加する一方です。当組合の平成31年中の救急出場件数は18,118件で、前年と比較すると118件減少しています。（平成30年の出場件数は18,236件。）

また、10年前と比較するとおよそ34%増加しています。（平成21年の出場件数は13,490件。）

ケガや病気の中には、日常生活の中で少しの注意や心がけで防げるものがあります。救急車を必要となるほどの大事に至らないように、日頃から注意し心がける意識や行動を「予防救急」といいます。

今回は、けがの中でも一番多い「転倒」について紹介します。

●段差につまずかないよう気を付けましょう

玄関や部屋の敷居など、家の中には意外と段差があるものです。どのような段差があるかチェックしてみましょう。

●転倒を防ぐために整理整頓を心掛けましょう

滑りやすいビニールや広告、チラシなどは片づけましょう。

●階段、廊下、玄関、浴室などには滑り止め対策をしましょう

転びやすい階段や浴室では手すりを付けるなどの対策があります。また、滑り止めのついた靴下も有効です。

●歩きスマホはやめましょう

転倒は家の中だけではありません。道路での歩きスマホは自分が転ぶだけではなく、相手を転ばせてしまう危険もあるのでやめましょう。

消防局救急課 TEL222-0160

川越地区消防組合議会が開催されました。

○令和元年第４回臨時会（令和元年12月26日開会）管理者提出議案

	件　　名	結果
議案第11号	はしご付消防自動車の取得の変更について	原案可決

◎12月6日川島町議会第５回定例会において、川越地区消防組合議会議員補欠選挙が行われ、森田敏男議員が選出されました。

◎令和元年川越地区消防組合議会第４回臨時会において、副議長が選出され、議席が決定しました。

組合議会議員名簿（令和2年2月現在）

議　長　桐野　　忠
副議長　道祖土　証

議席	氏　名	選出議会
1	道祖土　証	川島町
2	森田　敏男	川島町
3	小峯　松治	川島町
4	桐野　　忠	川越市
5	明ヶ戸亮太	川越市
6		
7	柿田　有一	川越市
8		
9	吉野　郁恵	川越市
10	小林　　薫	川越市
11	髙橋　　剛	川越市
12	小ノ澤哲也	川越市
13	小野澤康弘	川越市

ありがとうございます

消火・救急活動等の協力に対し、消防局長から感謝状が贈られました。

・川島町立つばさ北小学校
・川越市岸町　牧　征一さん
・川越市大字上老袋　江田　辰弥さん

消防局総務課 TEL222-0741

消防だより 虹のマーチ 2020.2 第45号

□発　行／川越地区消防局　総務課
〒350-0823 川越市神明町48-4　TEL049-222-0741
http://www.119kawagoechiku.jp/

Fontworks UD FONT

火事・救急・救助は119番　災害情報テレフォンサービス TEL0180-994-310　＊かけまちがいにご注意ください。